

第171回 中小企業の景気動向調査

調査時点	2017年3月上旬
調査対象期間	2017年1月～3月実績 2017年4月～6月見通し
調査対象企業	当金庫お取引先 1,783 社(大阪府内ならびに尼崎市)
回答企業数	1,455社
回答率	81.6%
調査方法	調査票郵送および聞き取り調査
分析方法	DI(Diffusion Index)を中心に分析 DIとは、売上、収益、価格、数量について、「増加」(上昇)と回答した企業割合から「減少」(低下)と答えた企業割合を差し引いた値 [例:売上DIの場合] 売上が「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いて求めます。

売上が「増加」した企業 45%	「変わらず」 20%	売上が「減少」した企業 35%
--------------------	---------------	--------------------

45% - 35% = 10 ← 売上DI

アンケート回答企業の内訳

業種別 従業員別	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	サービス業	運輸業	不動産業	計	構成比	累計 構成比
1～4	75	58	103	46	42	66	2	55	447	30.7%	30.7%
5～10	123	52	25	16	97	52	16	25	406	27.9%	58.6%
11～20	108	27	14	8	40	36	18	8	259	17.8%	76.4%
21～30	45	11	6	2	14	18	10	2	108	7.4%	83.8%
31～50	38	14	5	4	8	22	7	1	99	6.8%	90.7%
51～100	18	11	5	3	6	17	9	4	73	5.0%	95.7%
101～	12	6	4	1	1	7	4	0	35	2.4%	98.1%
無回答	6	3	1	2	2	7	3	4	28	1.9%	100.0%
計	425	182	163	82	210	225	69	99	1,455	100.0%	
構成比	29.2%	12.5%	11.2%	5.6%	14.4%	15.5%	4.7%	6.8%	100.0%		



(製造業の内訳)

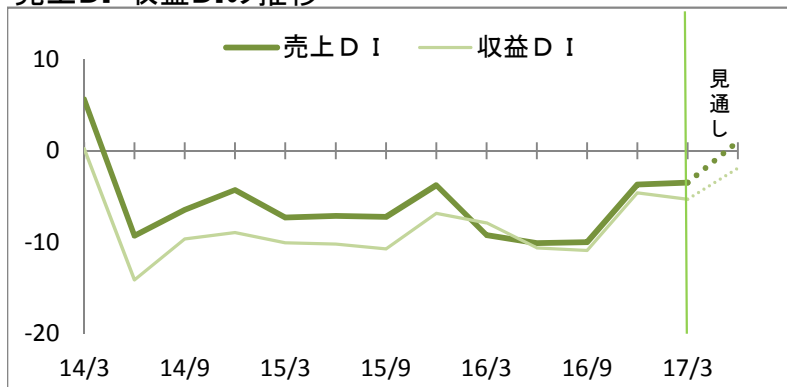
食料品	繊維	木材	家具・建具	パルプ・紙	印刷	化学
3.9%	11.5%	2.7%	1.2%	1.5%	8.1%	4.9%
ゴム・革	鉄鋼	建材	非鉄金属	金属製品	電子部品	その他
2.2%	9.3%	1.2%	4.4%	34.1%	3.9%	11.0%

総合

一時休憩 しかし先行きは明るく

売上DI・収益DIの推移

回答企業数: 1,455社

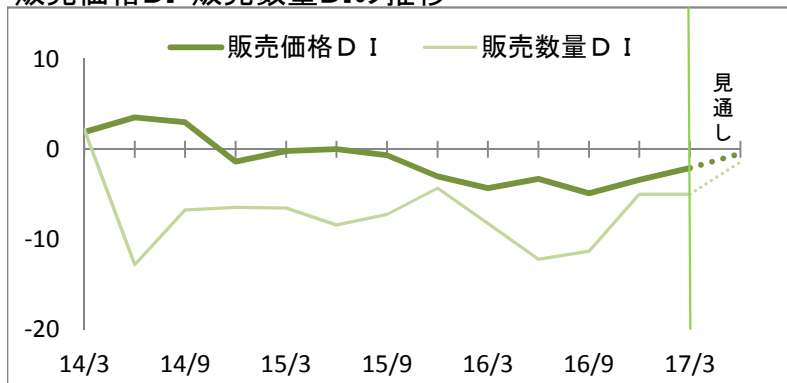


売上DIは $\Delta 3.5$ (前回比 $+0.2$ ポイント)、収益DIは $\Delta 5.3$ (前回比 $\Delta 0.7$ ポイント)となり、売上DI、収益DIともに横ばいで推移しました。

業種別では建設、運輸、不動産が売上DI、収益DIともにプラスでした。飲食業が大きく改善した一方、小売業が低調です。

2017年4-6月期は、売上DIが4.5ポイント、収益DIが3.4ポイントともに上昇と予想しています。

販売価格DI・販売数量DIの推移

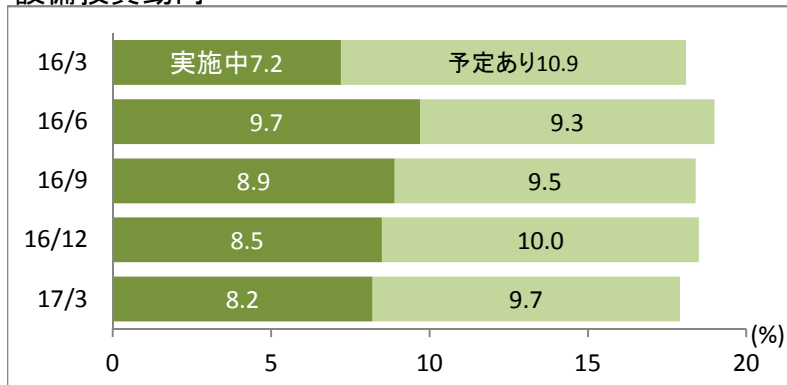


販売価格DIは $\Delta 2.1$ (前回比 $+1.3$ ポイント)、販売数量DIは $\Delta 5.0$ (前回比 $+0.0$ ポイント)となり、販売価格DIが上昇しました。

販売数量DIは飲食業、建設業で上昇しましたが、卸売業、小売業で下落しており、全体としては横ばいで推移しました。

2017年4-6月期は、販売価格DIが1.6ポイント、販売数量DIが3.6ポイントともに上昇と予想しています。

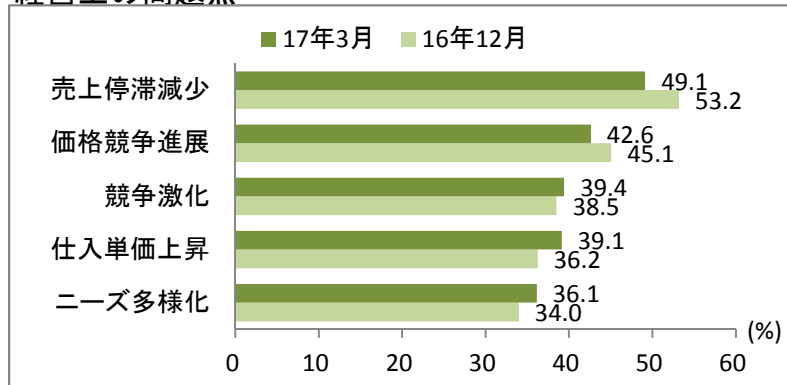
設備投資動向



「実施中」は8.2%(前回比 $\Delta 0.3$ ポイント)、「予定あり」は9.7%(前回比 $\Delta 0.3$ ポイント)で、設備投資動向は高水準で推移しています。

設備投資の主な内容は、「機械等の新設・増設」が32.6%、「事務所、店舗、工場等の保守・更新」が22.0%となりました。資金調達方法は、「自己資金」が35.5%、「借入の利用」が54.4%、「リースの利用」が10.1%となりました。

経営上の問題点



第一位は「売上受注の停滞減少」(49.1%)、第二位は「価格競争の進展」(42.6%)、第三位は「競争の激化」(39.4%)となりました。1年6カ月ぶりに「売上受注の停滞減少」が50%を割りました。

一方、建設業や運輸業など、業績が好調な業種では「人手不足」を問題点とする企業が増加しています。

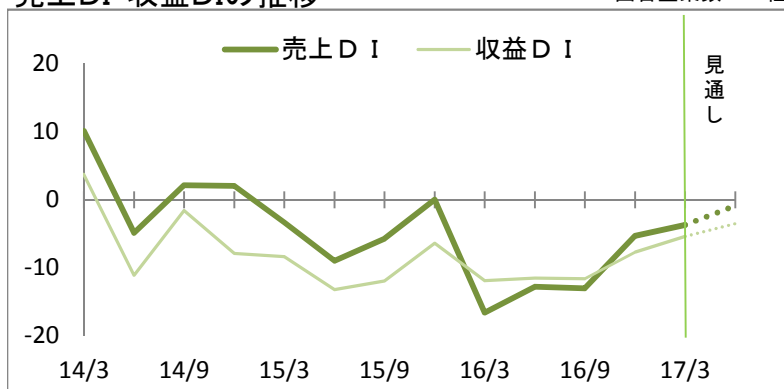
(中小企業診断士: 福井)

製造業

徐々に回復 工場に喧騒が戻るか？

売上DI・収益DIの推移

回答企業数: 425社

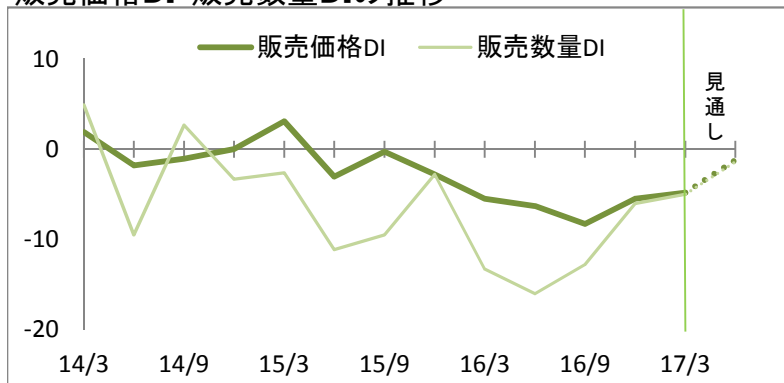


売上DIは△3.7(前回比+1.6ポイント)、収益DIは△5.4(前回比+2.3ポイント)となり、売上DI、収益DIともに上昇しました。

鉄鋼業や電子部品メーカーは好調ですが、建材メーカーは鉄骨など資材高騰の影響もあり厳しい状況です。

2017年4-6月期は、売上DIが2.8ポイント、収益DIが1.9ポイントともに上昇と予想しています。

販売価格DI・販売数量DIの推移

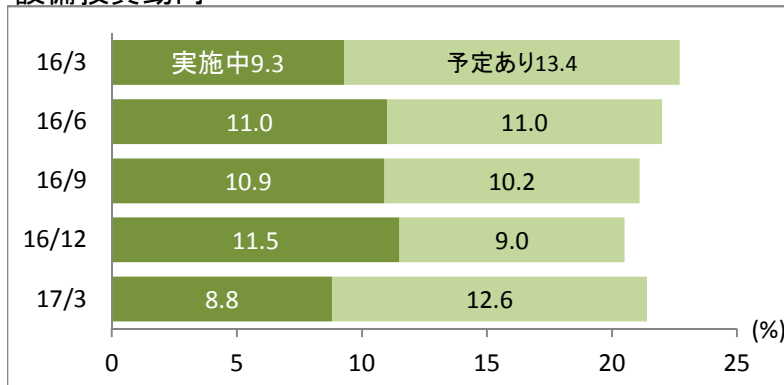


販売価格DIは△4.8(前回比+0.7ポイント)、販売数量DIは△5.0(前回比+1.0ポイント)となり、販売価格DI、販売数量DIともに上昇しました。

鉄鋼業が価格、数量ともに上昇しています。上昇し続けている鉄鋼価格が背景にあると思われます。

2017年4-6月期は、販売価格DIが3.6ポイント、販売数量DIが3.6ポイントともに上昇と予想しています。

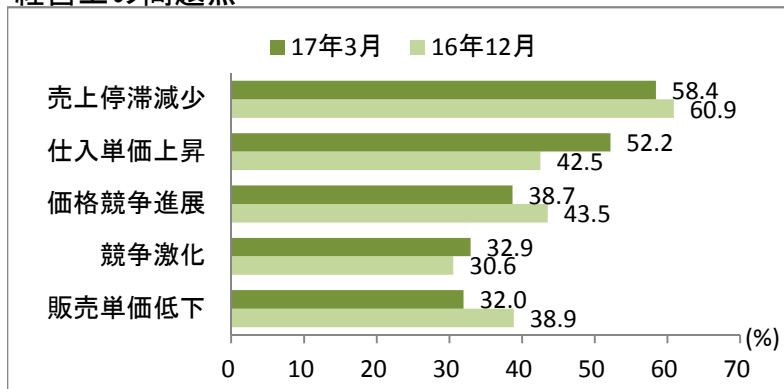
設備投資動向



「実施中」は8.8%(前回比△2.7ポイント)、「予定あり」は12.6%(前回比+3.6ポイント)です。

設備投資の主な内容は、「機械等の新設・増設」が52.4%、「機械等の保守・更新」が28.6%となりました。資金調達方法は、「自己資金」が30.0%、「借入の利用」が60.0%、「リースの利用」が10.0%となっています。業況が改善していることや、ものづくり補助金の積極的活用で、再び設備投資を考える企業が増えたものと思われる。

経営上の問題点



第一位は「売上受注の停滞減少」(58.4%)、第二位は「仕入単価の上昇」(52.2%)、第三位は「価格競争の進展」(38.7%)となりました。

中でも「仕入単価の上昇」が9.7ポイント上昇しました。建材メーカーでは、石油価格上昇や鉄骨など建築資材の上昇が影響していると思われます。

円安等の影響により、仕入単価が上昇し、価格転嫁できずに収益を圧迫している企業があります。

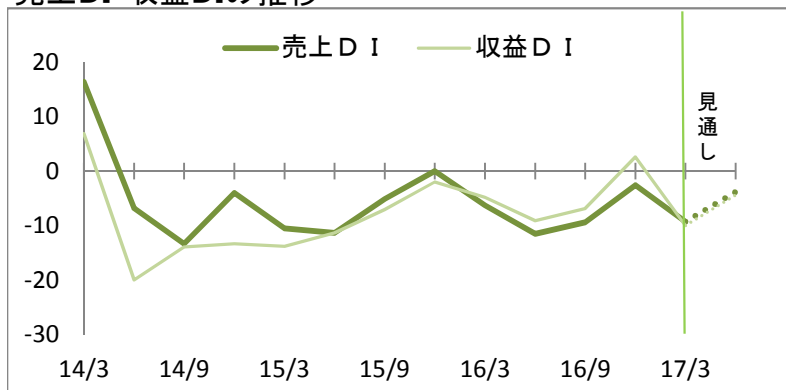
(中小企業診断士:兵庫・井筒・小阪)

卸売業

反転下落 予想以上の反動減

売上DI・収益DIの推移

回答企業数: 182社

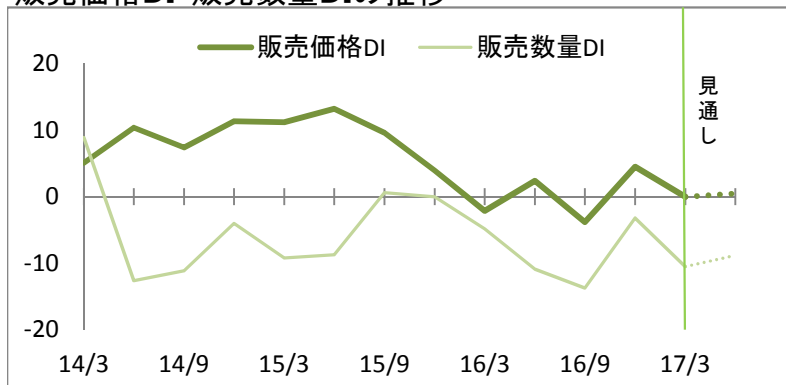


売上DIは△9.3(前回比△6.7ポイント)、収益DIは△10.0(前回比△12.6ポイント)となり、売上DI、収益DIともに下落しました。

金属製品卸売業では、鉄鋼などの値上がりにより売上が上昇しましたが、仕入単価上昇を価格転嫁できず、収益が悪化していると思われます。

2017年4-6月期は、売上DIが5.5ポイント、収益DIが5.6ポイントともに上昇と予想しています。

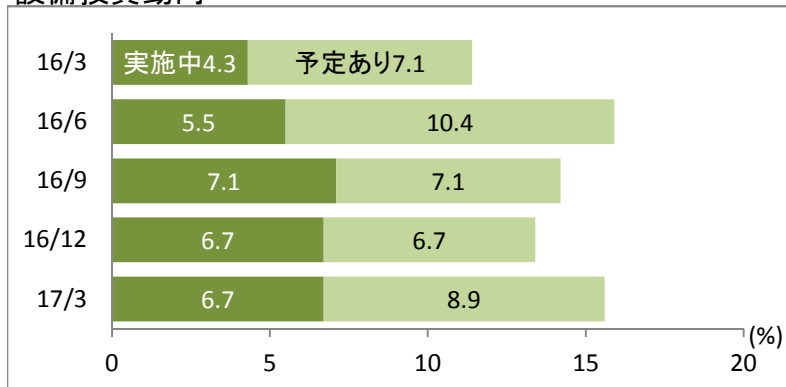
販売価格DI・販売数量DIの推移



販売価格DIは+0.0(前回比△4.5ポイント)、販売数量DIは△10.5(前回比△7.3ポイント)となり、販売価格DI、販売数量DIともに下落しました。特に飲食料品卸売業で販売数量DIの下落が顕著で、年末商戦後の反動減が予想以上であったと思われます。

2017年4-6月期は、販売価格DIが0.5ポイント、販売数量DIが1.7ポイントともに上昇と予想しています。

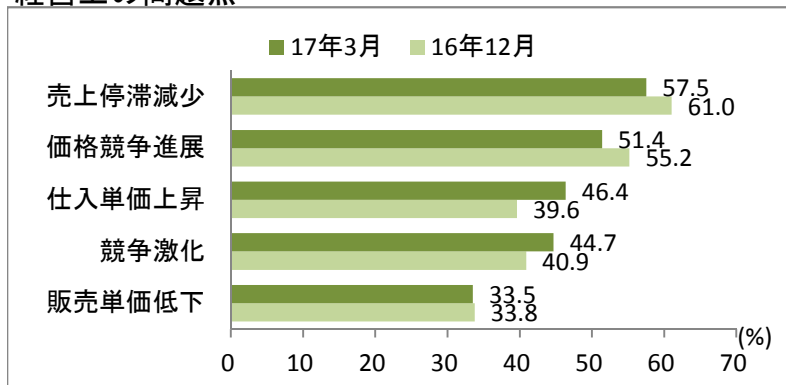
設備投資動向



「実施中」は6.7%(前回比+0.0ポイント)、「予定あり」は8.9%(前回比+2.2ポイント)です。

設備投資の主な内容は、「事務所、店舗、工場等の保守・更新」と「機械等の新設・増設」がともに28.0%、「事務所、店舗、工場等の新設・増設」が24.0%となりました。資金調達方法は、「自己資金」が28.6%、「借入の利用」が57.1%、「リースの利用」が14.3%となっています。

経営上の問題点



第一位は「売上受注の停滞・減少」(57.5%)、第二位は「価格競争の進展」(51.4%)、第三位は「仕入単価の上昇」(46.4%)となりました。

「仕入単価の上昇」が第三位に浮上しました。建材卸売業では、建築資材の値上がりで仕入単価が上昇していますが、価格競争により販売価格に転嫁できず、苦しい状況が続いています。

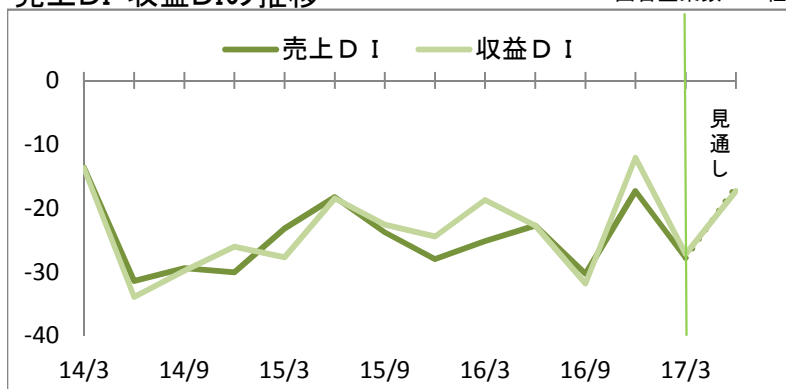
(中小企業診断士:小倉・真下・藤村)

小売業

下落2桁台 冬物衣料が振るわず

売上DI・収益DIの推移

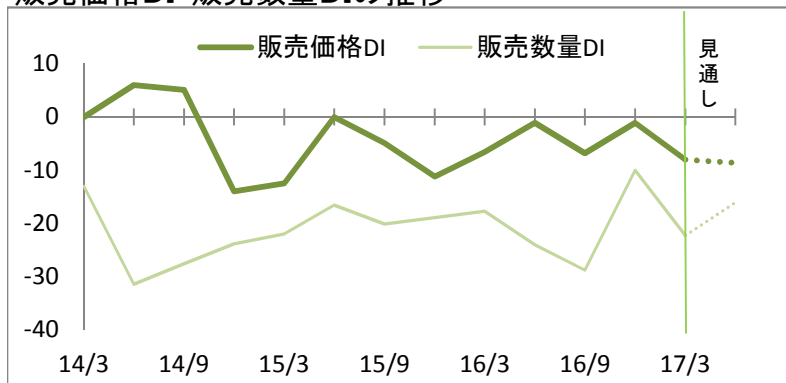
回答企業数: 163社



売上DIは△27.8(前回比△10.5ポイント)、収益DIは△27.2(前回比△15.1ポイント)となり、売上DI、収益DIともに、大幅な下落となりました。繊維など幅広い業種で下落しており、年末商戦の反動減が予想以上であったものと思われます。

2017年4-6月期は、売上DIが11.2ポイント、収益DIが9.9ポイントともに上昇と予想しています。

販売価格DI・販売数量DIの推移

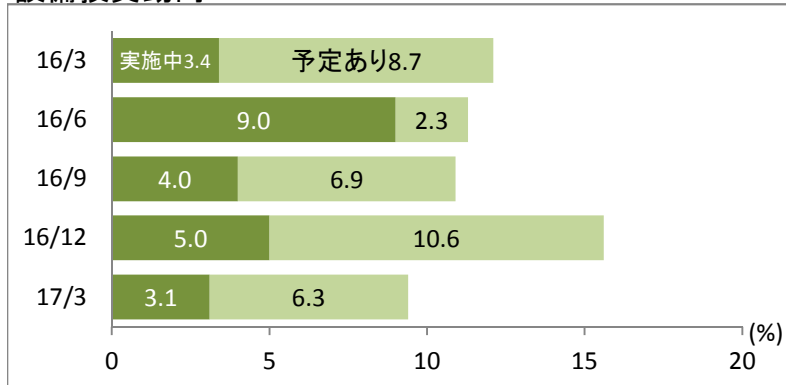


販売価格DIは△8.0(前回比△6.9ポイント)、販売数量DIは△22.3(前回比△12.3ポイント)となり、販売価格DI、販売数量DIともに下落しました。

繊維関連の不振が目立ちました。1月の平均気温が高く、冬物衣料が苦戦したものと思われます。

2017年4-6月期は、販売価格DIが0.6ポイント下落、販売数量DIが6.2ポイント上昇と予想しています。

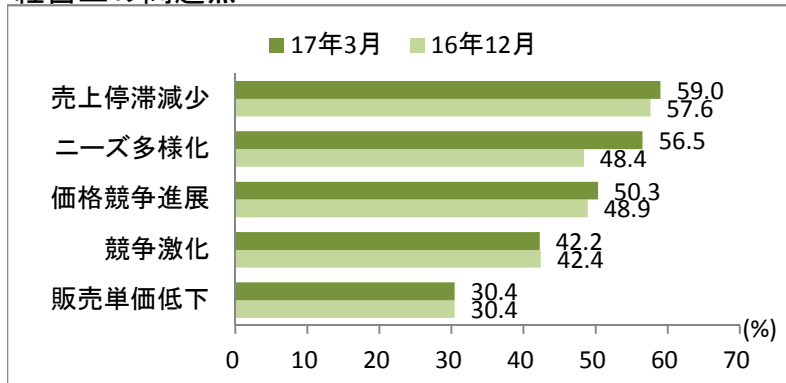
設備投資動向



「実施中」は3.1%(前回比△1.9ポイント)、「予定あり」は6.3%(前回比△4.3ポイント)で合計9.4%です。景況感が悪化したため、新たな設備投資を控えたものと思われます。

設備投資の内容は、「機械等の新設・増設」が42.9%、「事務所、店舗、工場等の保守・更新」が28.6%となりました。資金調達方法は、「自己資金」が57.1%、「借入の利用」が28.6%、「リースの利用」が14.3%となっています。

経営上の問題点



第一位は「売上受注の停滞減少」(59.0%)、第二位は「ニーズの多様化」(56.5%)、第三位は「価格競争の進展」(50.3%)となりました。

「ニーズの多様化」が8.1ポイント上昇しました。消費ニーズの多様化に加え、インバウンドにより外国人観光客への対応も必要であり、これまで以上に様々な顧客への対応が必要だと思われます。

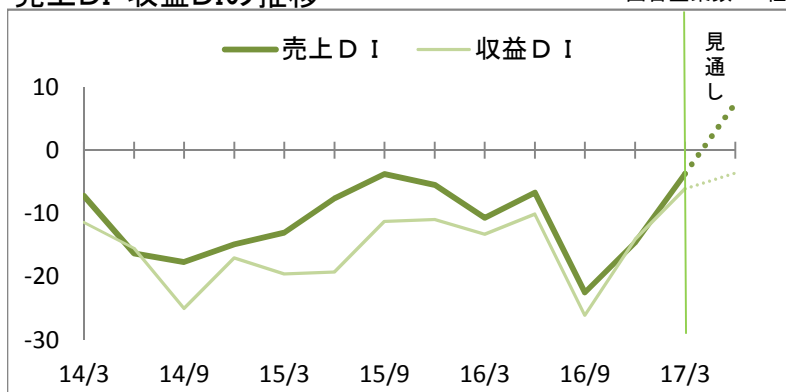
(中小企業診断士: 萩原・澤田・楠)

飲食業

2期連続上昇 インバウンドが牽引か？

売上DI・収益DIの推移

回答企業数:82社

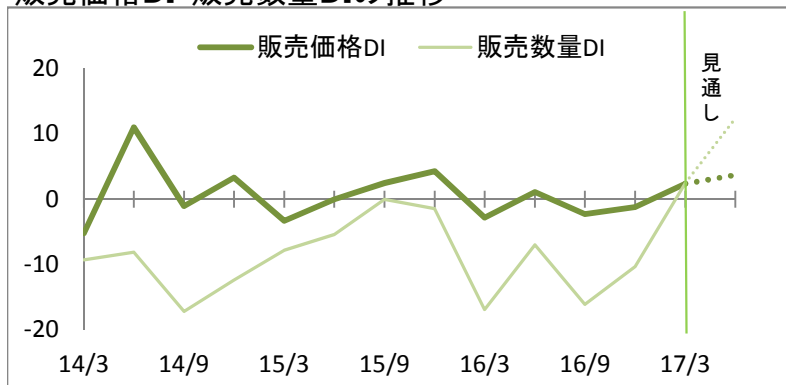


売上DIは△3.7(前回比+10.9ポイント)、収益DIは△6.1(前回比+8.0ポイント)となり、売上DI、収益DIともに2期連続で上昇しました。

インバウンドによる外国人観光客の増加に加え、モノ消費から飲食、コト消費へ観光目的がシフトしていることが、業況改善を後押ししているものと思われます。

2017年4-6月期は、売上DIが11.1ポイント、収益DIが2.5ポイントともに上昇と予想しています。

販売価格DI・販売数量DIの推移

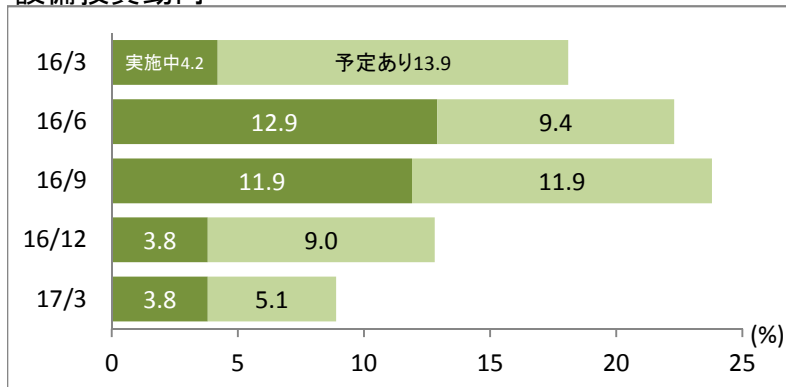


販売価格DIは+2.4(前回比+3.6ポイント)、販売数量DIは+2.5(前回比+12.8ポイント)となり、販売価格DI、販売数量DIともにプラスに転じました。

販売数量DIが特に上昇しています。好天が続いたことや、外国人観光客が順調な伸びを示したことが原因と思われます。

2017年4-6月期は、販売価格DIが1.3ポイント、販売数量DIが9.9ポイントともに上昇と予想しています。

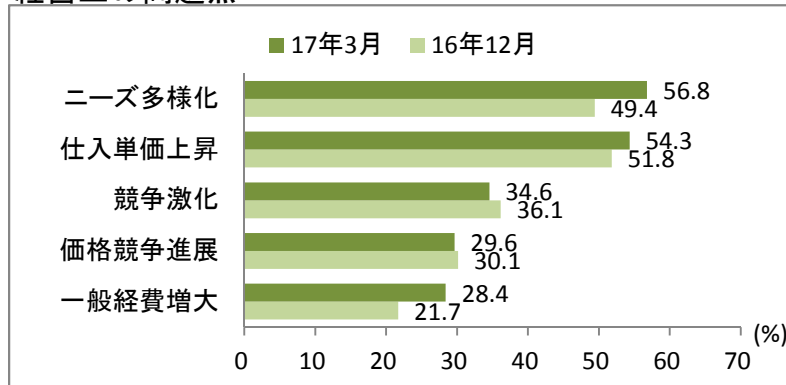
設備投資動向



「実施中」は3.8%(前回比+0.0ポイント)、「予定あり」は5.1%(前回比△3.9ポイント)で合計8.9%と減少しました。新規出店を検討しても、空き物件が少ない状況が見られます。

設備投資の主な内容は、「事務所、店舗、工場等の保守・更新」が60.0%、「事務所、店舗、工場等の新設・増設」が40.0%となりました。資金調達方法は、「自己資金」が33.3%、「借入の利用」が66.7%となっています。

経営上の問題点



第一位は「顧客ニーズの多様化」(56.8%)、第二位は「仕入単価の上昇」(54.3%)、第三位は「競争の激化」(34.6%)となりました。

今年に入り円安傾向が続き、輸入食材の価格に影響が出たものと思われます。また、小売業と同様、外国人観光客の増加により、更にニーズの多様化が進んでいます。

特に繁華街では競争相手が多く、鯖や牡蠣など食材を絞ったメニューを出す店や内装に趣向を凝らした店など、独自性を出す動きが見られます。

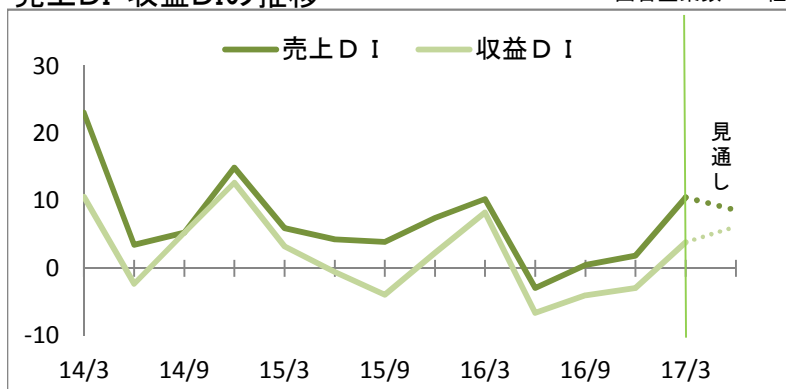
(中小企業診断士:尾崎・仲井・宗和)

建設業

収益DIもプラスへ 街に響く槌音

売上DI・収益DIの推移

回答企業数:210社

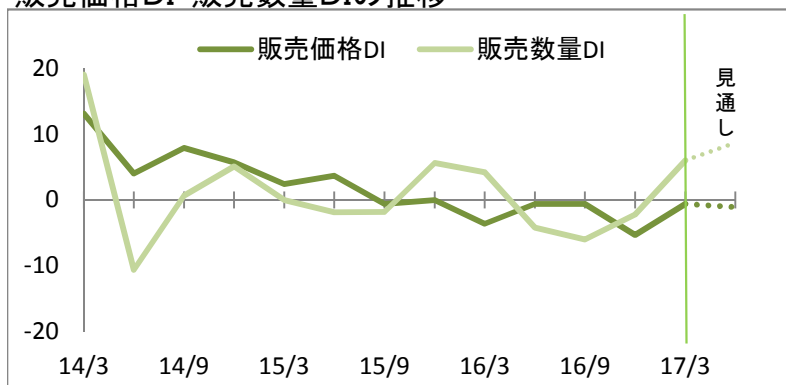


売上DIは+10.5(前回比+8.6ポイント)、収益DIは+3.9(前回比+6.8ポイント)となり、前回の売上DIに続き、収益DIもプラスに転じました。

公共工事は前年と変わりませんが、住宅ローンの金利低下に後押しされた住宅への需要が引き続き増加しているものと思われます。

2017年4-6月期は、売上DIが1.9ポイント下落、収益DIが2.3ポイント上昇と予想しています。

販売価格DI・販売数量DIの推移

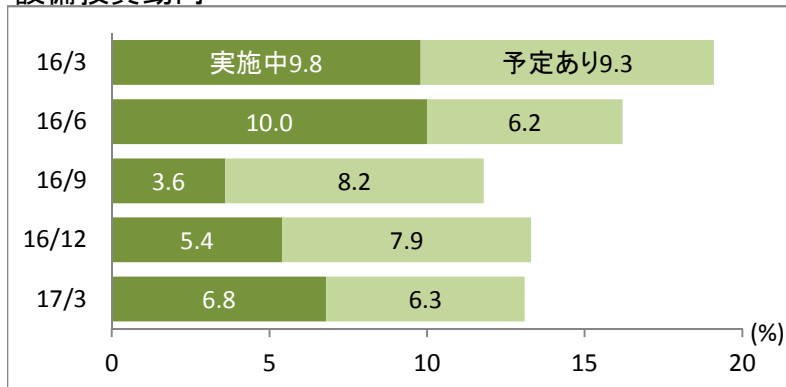


販売価格DIは△0.6(前回比+4.7ポイント)、販売数量DIは+6.0(前回比+8.2ポイント)となり、販売価格DI、販売数量DIともに上昇しました。

個人住宅への需要増加が販売数量DIの上昇を押し上げる要因です。一方、販売価格DIの上昇は人手不足による人件費の高騰や建材価格の上昇が販売価格に反映したものと思われます。

2017年4-6月期は、販売価格DIが0.5ポイント下落、販売数量DIが2.7ポイント上昇と予想しています。

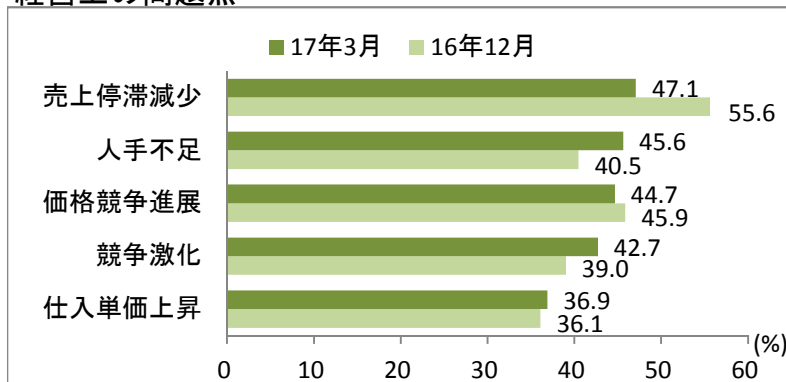
設備投資動向



「実施中」は6.8%(前回比+1.4ポイント)、「予定あり」は6.3%(前回比△1.6ポイント)です。設備投資は順調に増加しています。

設備投資の主な内容は、「車両」が41.7%、「機械等の新設・増設」が29.2%となりました。資金調達方法は、「自己資金」が58.3%、「借入の利用」が37.5%、「リースの利用」が4.2%となっています。

経営上の問題点



第一位は「売上受注の停滞・減少」(47.1%)、第二位は「人手不足」(45.6%)、第三位は「価格競争の進展」(44.7%)となりました。

「人手不足」は前回より5.1ポイント上昇しました。好調が続く中で、人材の不足が恒常化しており、安定した人材確保が難しくなっていると思われます。

また、人件費の増加が進み、利益率が低下する企業が出ています。

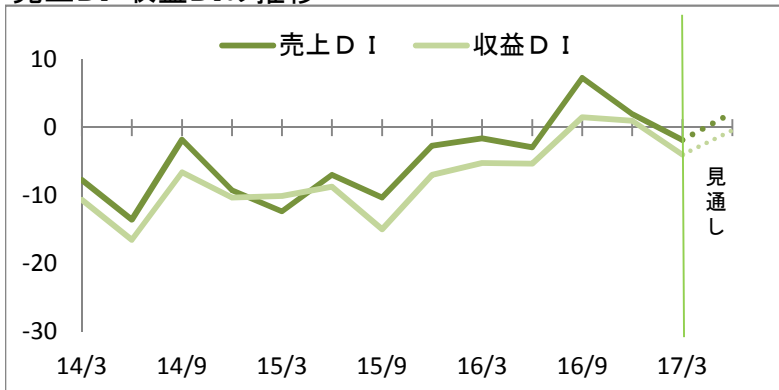
(中小企業診断士:中村・井筒・小阪)

サービス業

一進一退 売上・収益DI再びマイナスへ

売上DI・収益DIの推移

回答企業数: 225社

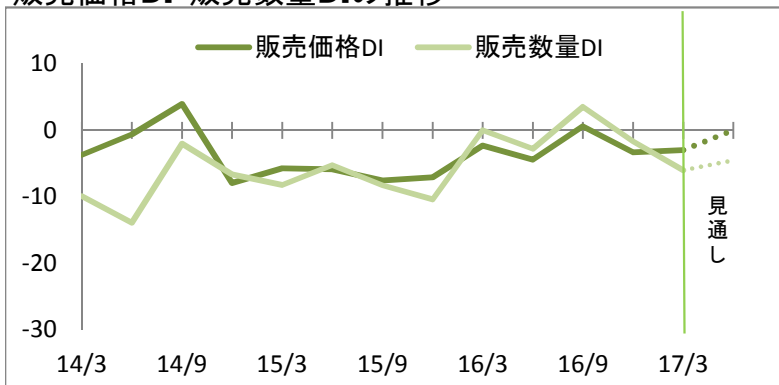


売上DIは△1.8(前回比△3.8ポイント)、収益DIは△4.0(前回比△5.0ポイント)となり、売上DI、収益DIともにマイナスへ転じました。

個人消費の低迷を背景に、美容室やクリーニング業など生活関連サービス業を中心に停滞感が広がっていると思われます。

2017年4-6月期は、売上DIが4.0ポイント、収益DIが3.6ポイントともに上昇と予想しています。

販売価格DI・販売数量DIの推移

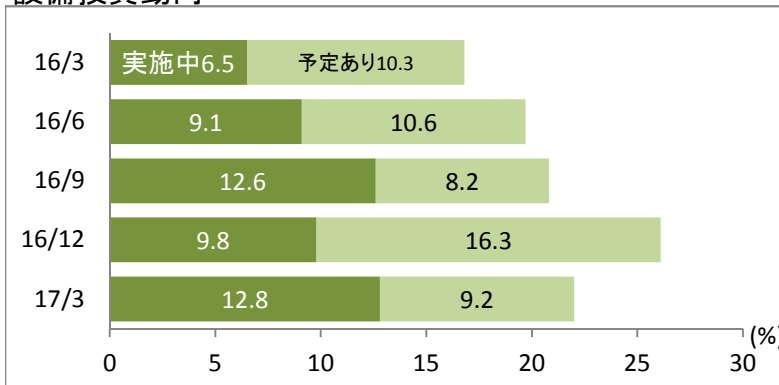


販売価格DIは△3.0(前回比+0.3ポイント)、販売数量DIは△6.0(前回比△4.3ポイント)となり、販売価格DIが上昇し、販売数量DIが下落しました。

美容室やクリーニング業など生活関連サービス業が、年末の反動減が予想以上に大きく、販売数量DIの下落に影響したと思われます。

2017年4-6月期は、販売価格DIが3.0ポイント、販売数量DIが1.5ポイントともに上昇と予想しています。

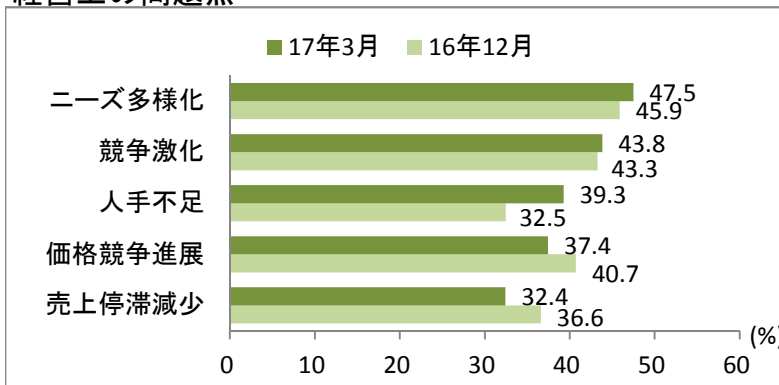
設備投資動向



「実施中」は12.8%(前回比+3.0ポイント)、「予定あり」は9.2%(前回比△7.1ポイント)で合計22.0%と下落しました。

設備投資の主な内容は、「事務所、店舗、工場等の保守・更新」が28.6%、「事務所、店舗、工場等の新設・増設」と「機械等の保守・更新」がともに23.8%です。資金調達方法は、「自己資金」が32.6%、「借入の利用」が60.4%、「リースの利用」が7.0%となっています。

経営上の問題点



第一位は「ニーズの多様化」(47.5%)、第二位は「競争の激化」(43.8%)、第三位は「人手不足」(39.3%)となりました。

「人手不足」は6.8ポイント上昇しました。介護サービスでは、労働条件の厳しさから人材確保が難しくなっているようです。また、IT関連の人材派遣業では、好条件を提示する他社の存在や高齢化による退職で、ITエンジニアなどの人材が不足し、受注に対応できない事例があります。

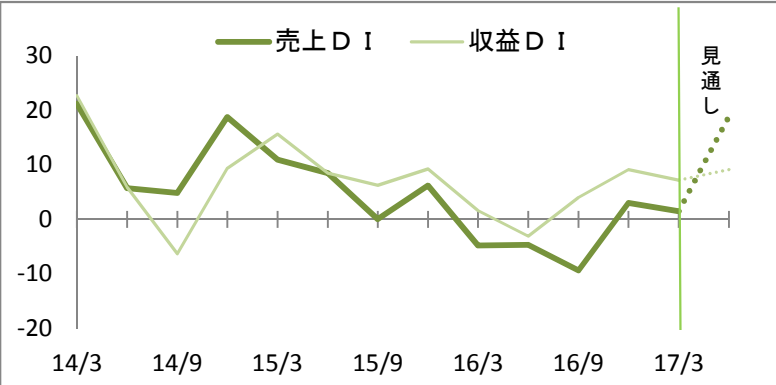
(中小企業診断士: 島崎・尾崎・竹並)

運輸業

引き続き好調も 足りない運転者

売上DI・収益DIの推移

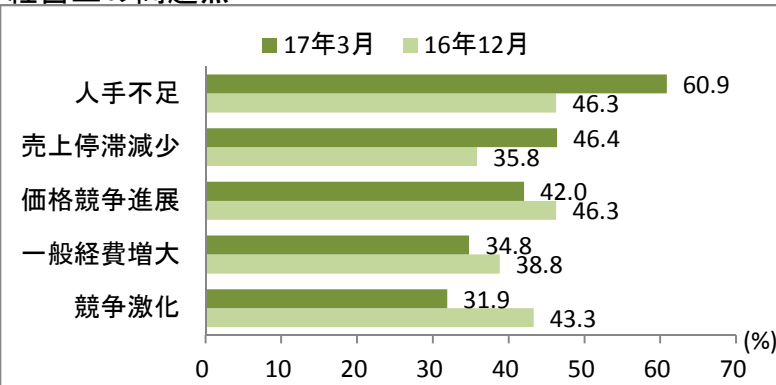
回答企業数:69社



売上DIは+1.5(前回比△1.5ポイント)、収益DIは+7.2(前回比△1.9ポイント)となり、売上DI、収益DIともに横ばいで推移しました。年末の運送需要が一巡したものと思われます。売上DI、収益DIともにプラス圏であり、依然として好調です。

2017年4-6月期は、売上DIが17.4ポイント、収益DIが1.9ポイントともに上昇と予想しています。

経営上の問題点



第一位は「人手不足」(60.9%)、第二位は「売上受注の停滞減少」(46.4%)、第三位は「価格競争の進展」(42.0%)となりました。

「人手不足」を経営上の問題点とする企業が6割を超えました。前回に売上DIが大きく上昇したため、人手不足感が更に深刻化したものと思われます。

好条件でなければ人材が集まらない悩みを持つ企業が多くなっています。

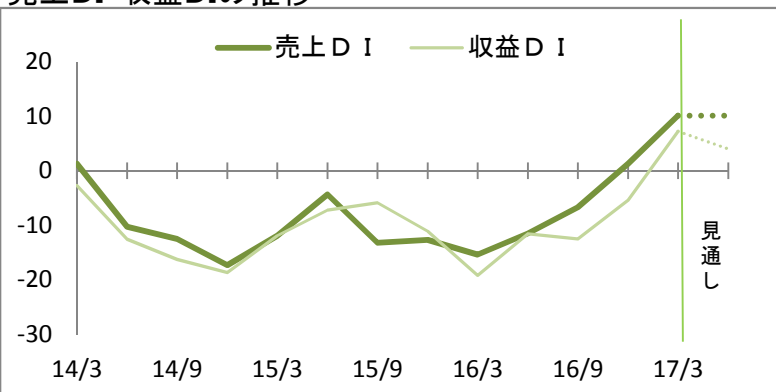
(中小企業診断士:芝田・畑・小阪)

不動産業

売上DI急上昇 地価上昇が後押しか？

売上DI・収益DIの推移

回答企業数:99社

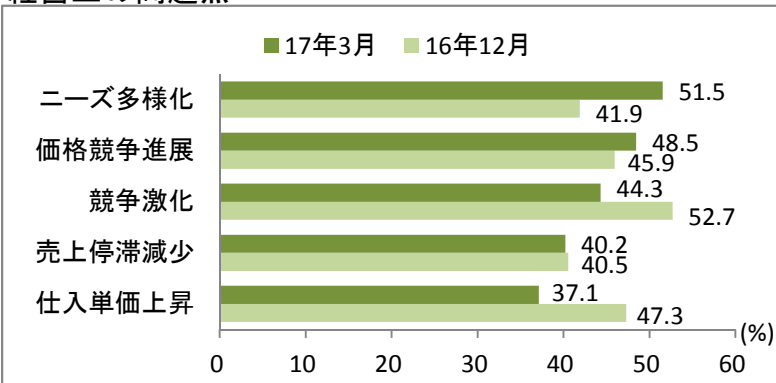


売上DIは+10.1(前回比+8.8ポイント)、収益DIは+7.2(前回比+12.6ポイント)となり、前回の売上DIに続き、収益DIもプラスに転じました。

地価上昇に伴い、不動産取引が活発化していることや、個人住宅の購入が増えていることが後押ししているものと思われます。

2017年4-6月期は、売上DIが横ばい、収益DIが3.2ポイント下落と予想しています。上昇する仕入単価を価格転嫁できず、今後収益率が低下すると考える企業が多くなっています。

経営上の問題点



第一位は「顧客ニーズの多様化」(51.5%)、第二位は「価格競争の進展」(48.5%)、第三位は「競争の激化」(44.3%)となりました。

不動産業界は好調ですが、価格設定が売上に影響することもあり、顧客を訴求する価格設定が課題の一つになっていると思われます。

「ニーズ多様化」については、賃料を抑えるためにシェアハウスを希望するケースや昔の寮のような食事付住宅を希望するケースが見られます。

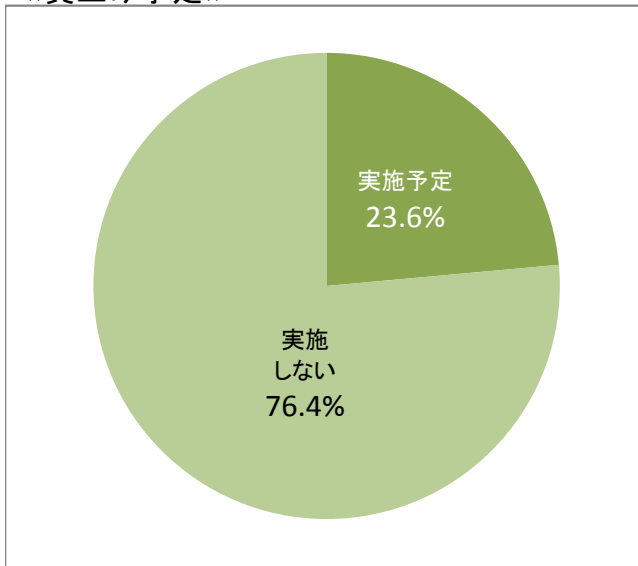
(中小企業診断士:仲井・永井・竹並)

賃上げについて

「実施予定」2割を維持

《賃上げ予定》

回答企業数：1,426社



「実施予定」が23.6% (昨年比△0.5%)、「実施しない」が76.4% (昨年比+0.5%)となり、「実施予定」は昨年と横ばいです。

業種別では、「実施予定」が製造業30.4%、卸売業29.2%、建設業26.7%、運輸業23.5%となっています。

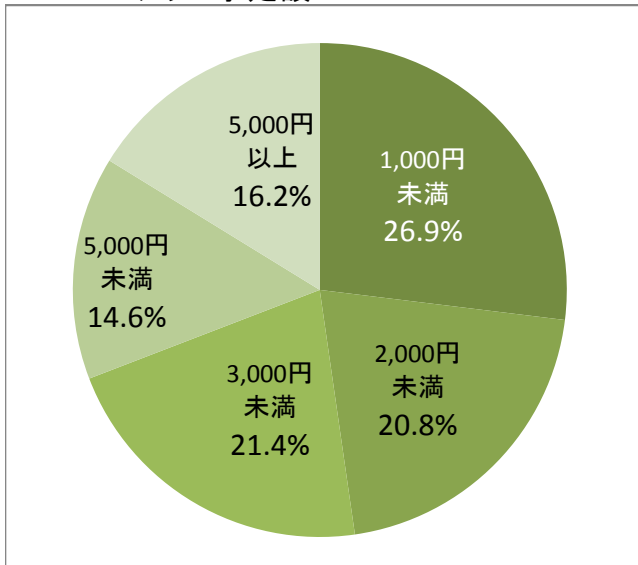
従業員数別では、従業員が多い企業ほど、「実施予定」の割合は高い傾向があります。

特に、従業員数50人超の企業では、「実施予定」が昨年よりは低下したものの半数近くあります。また、20人超30人以下の企業で「実施予定」の割合が上昇しました。今年は従業員の少ない企業にも賃上げの動きが出ています。

人手不足感の高まりを反映し、労働力確保のために賃上げを考える企業が依然として多いものと思われます。

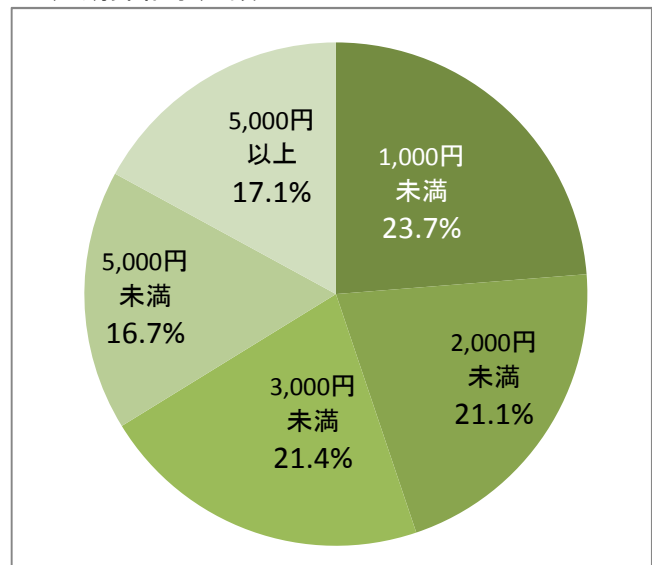
《ベースアップ予定額》

回答企業数：308社



《定期昇給予定額》

回答企業数：299社



業種別

単位：%

	全体	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	サービス	運輸業	不動産業
実施予定	23.6	30.4	29.2	12.2	12.8	26.7	16.2	23.5	20.4
実施しない	76.4	69.6	70.8	87.8	87.2	73.3	83.8	76.5	79.6

従業員数別

単位：%

	全体	4人以下	5～10人	11～20人	21～30人	31～50人	51～100人	101人以上
実施予定	23.6	8.1	21.1	29.8	46.6	35.7	46.6	48.6
実施しない	76.4	91.9	78.9	70.2	53.4	64.3	53.4	51.4

従業員平均給与(税込)

単位：%

	20万円未満	30万円未満	40万円未満	50万円未満	50万円以上
全体	21.5	52.9	21.1	3.4	1.0
製造業	14.5	59.5	23.0	2.5	0.5
卸売業	15.7	59.0	19.1	6.2	0.0
小売業	46.8	46.1	5.7	1.4	0.0
飲食業	50.7	39.4	8.5	0.0	1.4
建設業	10.4	48.8	34.3	4.5	2.0
サービス業	29.3	48.3	20.5	1.5	0.5
運輸業	3.0	53.0	34.8	6.1	3.0
不動産業	23.0	52.9	12.6	6.9	4.6

役員平均年収(税込)

単位：%

	300万円未満	500万円未満	700万円未満	1,000万円未満	1,000万円以上
全体	21.8	32.7	19.9	16.7	8.8
製造業	16.9	32.1	22.2	22.0	6.8
卸売業	17.8	34.9	17.8	16.0	13.6
小売業	43.7	36.3	10.4	4.4	5.2
飲食業	41.3	34.9	11.1	6.3	6.3
建設業	16.9	27.4	21.9	22.4	11.4
サービス業	25.1	31.8	20.0	14.9	8.2
運輸業	6.6	41.0	27.9	13.1	11.5
不動産業	18.0	33.7	23.6	14.6	10.1